シリーズ人権教育　第１４１回

性的マイノリティについて

性的マイノリティとは



　性的マイノリティとは、性を構成する要素である生物学的な性、性自認、性的指向などのいずれかが、多数とは異なる人たちのことを指す言葉です。

　ＬＧＢＴＩ（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセックス）と分類されるように、恋愛の対象が同性である人、同性・異性両方である人、自分の体の性に違和感を持つ人、生まれたときにどちらの性か判断できない人など、その状態はさまざまです。

性同一性障害について

　トランスジェンダー（自分の体の性に違和感を持つ人）の中でも、外科手術やホルモン治療など医療を必要とする人たちの状態を、性同一性障害といいます。

　原因ははっきり分かっていませんが、胎児期の外部からのホルモンなどの影響で、脳の性分化が体の性と違う方向に進んだという説が知られています。家庭での育て方などの問題ではなく、精神療法などでも心の性を変えることはできないとされています。

　岡山大学病院ジェンダークリニックの中塚幹也教授らが平成１１年から２２年の受診者に行った調査の結果によると、９０％の人が中学校卒業までに自分の性に違和感を覚え始めたといいます。性同一性障害を持つ多くの人が、子どもの頃から心の性と体の性や周囲から認識されている性にずれを感じ、悩みながら学校生活を送っているのです。

　現在は、性別適合手術によって心と体の性を一致させた上で戸籍上の性別を変えることもできるようになりました。しかし必ずしも容易ではなく、住民票や戸籍の提出に躊躇するため正社員になることをあきらめ、アルバイト生活を送りながら高額な治療費を捻出している、保険証の性別欄と見比べて不審者のような目で見られるため病院の受診を我慢するなど、日常生活を送る上で多くの支障が生じています。

誰もが暮らしやすい社会に

　平成２４年、民間調査会社が全国の２０歳から５９歳の男女７万人を対象に行った調査によると、ＬＧＢＴのいずれかの状態にある人の割合が５・２％（約２０人に１人）であるという結果が出ました。

　しかしこのような人たちの声が聞こえてこない、自分の身近にはいないと感じるのは、多くの当事者が「言えない」環境があるからかもしれません。

　誰もが暮らしやすい社会を作るためには、まずこういったことで苦しんでいる人がい

るということを知り、ありのままの個人を認め、理解し、受け入れることが必要です。

参考資料／

アイユ２７０号（（公財）人権教育啓発推進センター）

ウェブサイト「４７ＮＥＷＳ医療新世紀」全国新聞ネット電通総研ＬＧＢＴ調査２０１２（株式会社電通）

